

【事例 H28-42】高知県

自殺未遂者支援事業

【概要】安芸福祉保健所が平成 25 年度から開催している「ここから東部地域ネットワーク会議」(自殺予防ネットワーク)にて、自殺未遂者への支援の必要性が挙げられ、管内の救急医療機関の状況を参加者で共有及び未遂者支援の先進県を講師として招き、具体的な未遂者支援について検討を行った。このなかで、未遂者を支援していく仕組みづくりの必要性があげられ、平成 28 年度からの検討会立ち上げにつながった。

【実施主体】高知県障害保健福祉課

【大綱の分類】7) 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ

【事業予算】 1,329 千円 (H27 年度)

【利 点】

- ・それぞれの機関の未遂者への対応について共有することで、未遂者支援の現状について把握でき、問題意識が持てる。
- ・他県の先進的な取組について学ぶことで、具体的な未遂者支援を協議していく際の参考になる。
- ・関係機関が協議し、取り組みを検討していくことで、連携強化につながる。

【実施に至るまで】

平成 26 年度ここから東部地域ネットワーク会議

- ①顔の見える関係づくりを進めるため、各機関の役割を共有したり、事例検討を行うなかで、消防署から自殺企図者の実態について情報提供があり。
- ②救急現場での自殺未遂者への実態について共有したいとの声があがった。

平成 27 年度 具体的な内容

▼あき総合病院の現状と課題について

- ・救急現場の未遂者支援の現状について報告があり、同じ自殺企図者が繰り返し搬送されることや、地域と連携が出来ておらず、手当後のフォローが十分に出来ていないことが課題として挙げられた。
- ・参加者で意見交換を行い、救急隊から病院へ、病院から地域へとそれぞれの連携が必要であることや、そのためにも顔の見える関係作りが重要であることを共通認識できた。

▼自殺対策先進地研修

- ・滋賀県における自殺予防ネットワークの構築から実践について報告いただき、民間団体と連携することの必要性や日頃の精神保健医療福祉活動で顔の見える関係を作

り、連携していくこと、地域特性を考慮して市町・圏域でモデル化し県全域に広げていくことが紹介された。

・参加者による意見交換では、「顔の見える関係作り」が最も重要であり、このネットワーク会議を活用し他機関と連携を深めていきたいとの声が挙げられた。

【成 果】

- ▼自殺未遂者を取り巻く支援状況について、関係者が顔を合わせ、現状等の意見交換を行うことで、日常の業務では知り得なかった課題を共有することができ、また、他県の実際的な取組を知ることで、関係者の意識が高まり、自殺未遂者支援の原動力となった。
- ▼関係者で未遂者支援について協議するなかで、関係機関の連携及びネットワークづくりが重要であることを再確認できた。
- ▼警察署や消防署、病院等の自殺未遂者支援に従事する関係者で、より具体的な協議をする場として平成 28 年度からの検討会立ち上げにつながった。

【補 足】

▼ここから東部地域ネットワーク会議
参加機関

▼会議の様子



【課 題】

・今後、安芸市での自殺未遂者相談支援事業の取組を他市町村に広げていくことが必要。このネットワーク会議にて、安芸市の取組状況を共有していき、事業を拡大していきたい。

【事業種別】

研修実施

【準備期間・人数】

1年・6人程度

【予防段階】	3次予防		
【自治体規模】	人口 72万人	財政規模	4,584億円
【自治体負担率】	無し		
【事業対象】	市町村、医療機関、警察署、消防署、その他関係機関		
【支援対象】	県民		
【実施主体・問合せ先】	高知県障害保健福祉課	TEL : 088 (823) 9669	

※データは全てH27年度時点のもの

【参考資料・文献】

・高知県 HP : <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060301/jisatsuyobou.html>